(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構

東日本大震災・原子力災害伝承館

副館長　清水一郎

2020年（令和2年）9月20日開館　※4年11か月経過

あの日からの経験～未来への教訓

①地震（Mw9.0：震度5強から6強：約180秒の揺れ）
②津波（10mを超える大津波）
③原子力発電所の事故（見えない放射線の恐怖）

伝承館開館の目的

2011年の東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故という甚大な複合災害の記録と記憶を防災・減災の教訓として未来に繋ぐ

福島イノベーション・コースト構想

- 浜通り地域等における産業の復興のため、同地域での**新たな産業の創出**を目指す構想。
- **６つの重点分野**を位置付け、産業集積、教育・人材育成、交流人口拡大、情報発信等に、**「(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構」**（平成29年7月～、理事長 斎藤保氏(㈱IHI特別顧問)）、国、福島県、市町村等が連携し取り組んでいる。

６つの重点分野

廃炉

国内外の英知を結集した技術開発

廃炉作業などに必要な実証試験を実施する「楢葉遠隔技術開発センター」

ロボット・ドローン

福島ロボットテストフィールドを中核にロボット産業を集積

陸・海・空のフィールドロボットの使用環境を再現した「福島ロボットテストフィールド」

※令和７年４月にF-REIに統合

エネルギー・環境・リサイクル

先端的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立

再生可能エネルギーから水素を製造する「福島水素エネルギー研究フィールド」

農林水産業

ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生

ICTを活用した農業モデルの確立「トラクターの無人走行実証」

医療関連

技術開発支援を通じ企業の販路を開拓

開発から事業化までを一体的に支援する「ふくしま医療機器開発支援センター」

航空宇宙

「空飛ぶ車」の実証や関連企業を誘致

航空宇宙関連産業の技術交流等を行う「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま」

（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構、国、福島県、市町村 等

産業集積

トップセールスでの企業誘致活動、ビジネスマッチング支援、工場建設や新たな製品開発への支援（企業立地補助金等）

教育・人材育成

大学による市町村と連携した教育活動（フィールドスタディ等）への支援

交流人口拡大

イノベ構想の各拠点や取組を紹介するツアーの実施

情報発信

東日本大震災・原子力災害伝承館の運営、シンポジウムの実施

伝承館の基本理念

1　未来への継承・世界との共有
2　防災・減災
3　復興の加速化への寄与

東日本大震災と原子力災害からの
復興を目指し、福島県浜通り地域に
新たな産業を創出するための
【　国家プロジェクト　】

（革新的な）　（沿岸・海岸）
福島イノーベーション・コースト構想
↓
公益財団法人
福島イノベーション・コースト構想推進機構
（＋国・福島県・市町村等）
↓
■伝承館■
知の交流拠点・情報発信拠点

福島県の死者・行方不明者数
→　1,810人　※9.8%
（宮城約10,777人、岩手約5,797人）

福島県の震災関連死者数
→　2,348人　※62.6%
（宮城932人、岩手472人）

福島県の避難者数
→2012年　約16,5万人
（2025年　約2.5万人（▲約14万人））

原発事故による放射性物質の拡散
福島市：事故直後約24μSv→約0.1μSv

（大阪万博会場への中継）

■ 伝承館 ： 4事業 ■

1　収集・保存　（現物資料のほか証言などの記憶）
2　調査・研究　（複合・原子力災害の研究・教訓）
3　展示・プレゼンテーション　（福島の光と影）
4　研修　（防災・減災のきっかけを作り、行動に繋げる）

高村館長　→　長崎大学原爆後障害医療研究所教授、医学博士
（チョルノービリ原発関連やWHO勤務）

入館者　→　累計入館者：約39万人

語り部　→　累計聴講者：約4．2万人（定期語り部1日4回）

一般研修　→　累計受講者：約5．7万人（語り部・FW・WS）
その他、専門研修もあり　※人数：令和７年７月現在

資料収集　→　展示約300点、収集計約29万件（データ含む）

○　地元町村との連携、地域協力
○　イノベ構想の拠点や関係機関等との連携、協力
○　伝承館を使用したイベントなどへの実施協力　など

東日本大震災・原子力災害伝承館の管理・運営

- 複合災害の記録と教訓を収集・保存するとともに、調査・研究し、展示、研修を行う情報発信拠点「東日本大震災・原子力災害伝承館」を双葉町に整備。2020年9月20日オープン。
- 開館以来の累計入館者数は、**385,740人**（2025年6月末）
- 福島イノベ機構では、同館の指定管理（5年間）を2020年4月より受託し、2025年4月に更新。

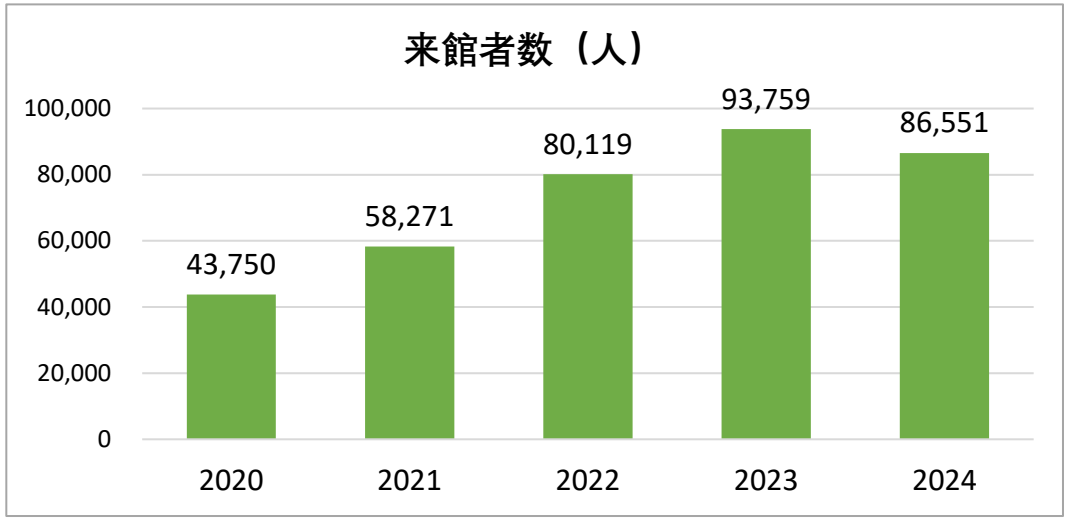
・開館時間：9:00～17:00（最終入館16:30）
・休 館 日 ：火曜日・年末年始（12/29～1/3）
・入 館 料 ：大人 600円　小中高 300円
　　大人団体（20名以上） 480円
　　小中高団体(20名以上）240円

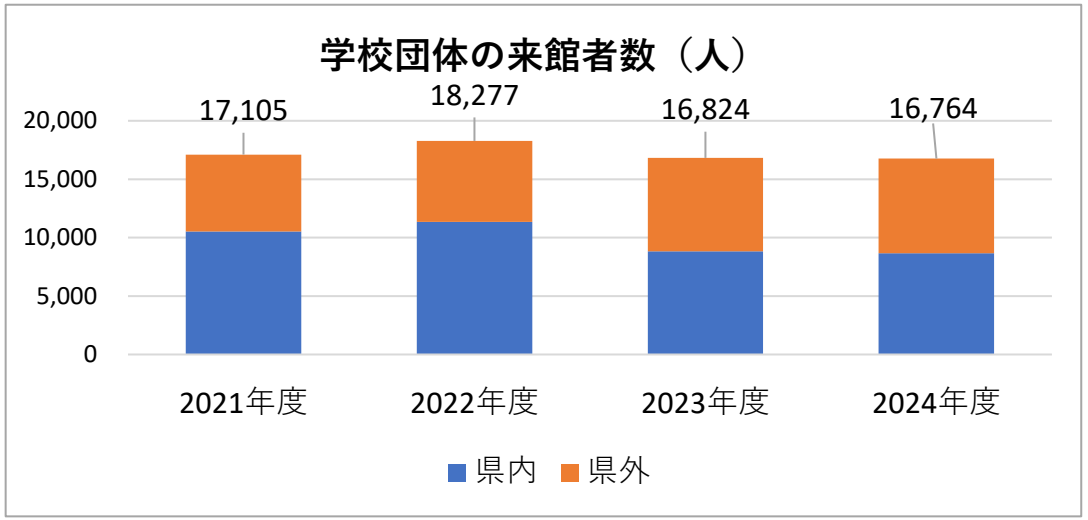
※入館料は1名あたりの金額。教育活動での減免制度有。

※「収集・保存」「展示」「研修」(写真参照)のほか、「調査・研究」についても体制整備を進め、2022年4月、上級研究員・常任研究員からなる「調査・研究部門」を本格的に立ち上げ。

◆来館者の状況

- 新型コロナウィルス禍の開館であったが、来館者数は堅調に推移し、累計で2022年3月に10万人、2023年6月に20万人、**2024年7月に30万人に到達。**
- 行動制限の緩和等の影響もあり、2022年度は年間8万人、**2023年度は年間9万人を超えた。**
- 開館前から教育旅行の誘致に力を入れ、県内外から多くの学校団体が来館。





■主な視察受入

（2025年度）

- 6月26日 伊藤復興大臣・サウジアラビア大使

（2024年度）

- 4月18日 土屋復興大臣・カナダ大使
- 4月24日 ベラルーシ臨時代理大使
- 6月　7日 フランス大使
- 9月26日 韓国大使
- 11月16日 ドイツ大使
- 11月21日 伊藤復興大臣

サウジアラビア大使視察

伊藤復興大臣視察

■専門研修

○ 専門講座の実施

館長・上級研究員による**復興や防災に関する専門的な講義**を実施。

【講座一覧】

・高村館長　　「放射線被ばくと健康影響、リスクコミュニケーション」
・安田上級研究員「原子力防災と放射線」
・関谷上級研究員「風評、避難における社会心理」
・開沼上級研究員「福島復興・廃炉の社会科学、
　　ボードゲーム型復興・廃炉体験で学ぶ福島学」

【受講団体数】

2025年度：１団体、５人（６月末時点）　【参考】2024年度：６団体、126人

（公財）環境科学技術研究所受講
（髙村館長の専門講座）

○ 専門的な研修プログラムの実施

＜令和6年度実績＞

①福島学カレッジ

（●表現コース：2024年７月～９月全３回　●研究コース：2024年10月～１月全４回）

・ 開沼上級研究員らが講師となり、中高生を対象に「福島の研究」を実践する機会を提供。

②自治体職員向け研修（2025年１月）

・ 原子力防災・放射線に関する講演、被災地域のフィールドワークなど
・ 原子力発電所立地地域の自治体が対象（日本原子力文化財団との共催）

③消防職員向け原子力研修（2025年２月）

・ 安田上級研究員講演、双葉消防本部講話
・ 福井県敦賀美方消防組合が参加

福島学カレッジ表現コース
参加学生の作品を展示

消防職員向け原子力研修

ふくしまは「はまなかあいづ」

（西から、越後山脈、奥羽山脈、阿武隈高地　～　大きく異なる気候）

豊かな自然

磐梯山、安達太良山
猪苗代湖、檜原湖
尾瀬、三春滝桜
各海岸、花見山
など、たくさん

名産品

赤べこ、だるま
起き上がり小法師
会津桐、こけし
喜多方ラーメン
薄皮饅頭、いか人参
など、たくさん

↑復興庁資料

農林水産物

桃、梨、ぶどう、いちご
などのフルーツ
鯉、あんこう、さんま
カツオなどの魚介
米、味噌、野菜、日本酒
など、たくさん

観光地

大内宿、五色沼
アクアマリンふくしま
飯坂・東山・土湯等
温泉地、鶴ヶ城、
あぶくま洞、さざえ堂、
塔のへつり
など、たくさん